

戦争は最大の人権侵害 – 戦争と人権 –

日本は、第二次世界大戦(太平洋戦争)において、広島・長崎への原爆投下、沖縄への上陸攻撃など、数多くの犠牲者を出し、ようやく終戦を迎えました。悲惨な経験を糧に「二度と過ちは犯さない」という信念のもと、「戦争」のない社会を創りあげてきました。しかし、世界を見てみると、民族や宗教間での対立や偏見・差別が存在し、そのことが新たな紛争を引き起こしているという現状があります。

2022(令和4)年の2月にロシアがウクライナに侵攻して3年が過ぎました。さらには、イスラエルとハマスの紛争もはじまるなど、不安定な現状があります。最大の被害者は、そこで暮らす住民です。自由に生きる権利や好きなところに住み続ける権利、さらには、尊い命までもが奪われています。

戦争は「最大の人権侵害」です。



今、わたしたちにできること – 災害と人権 –

2024(令和6)年1月1日、最大震度7を観測した「能登半島地震」が発生しました。災害は多くの人命を危険にさらし、被災者の生活や働く場を奪い、また情報不足やデマによる人権侵害が生じるなど、被災地は大きな被害を受けます。

それにもかかわらず、わたしたちの記憶は時間とともに薄れ、どこか他人事になっていく傾向があります。だからこそ、わたしたちは被災地の「先が見えない過酷な生活の実態」や「声にならない現場の悲痛」等を被災地の声として知っていくこと、知ろうとしていくことを忘れてはなりません。

避難所では・・・

- お母さんが、赤ちゃんの夜泣きがうるさくて眠れないと他の人に怒鳴られた。
- 耳の聞こえない人が、ご飯の知らせを含めて情報が伝わらないので困っている。
- 生理用品や女性用下着が物資で入ってきたが、男性だけが物資担当になっていて、もらいに行きづらい。また、体力のある人が先に物資をたくさん持って行ってしまう高齢者など体が不自由な人がもらい損ねている。

あるテレビ番組から・・・

- 先日、被災直後から避難所にいる障がいのある人たちの状況について報道がされていました。自閉症の息子と避難している母親が「もう、いっぱいいっぱいです。どうしていいかわからない。皆ともういられない。迷惑をかけてしまうし、理解してもらえないし、どこかに行けと言われても行くところもない・・・」と涙ながらに語っていました。

ニュースや新聞等の報道では、このような困りや辛さだけでなく、被災者同士が共に支え合いながら避難生活を送っている様子や多くのボランティアによって被災者支援が行われている様子も報道されています。

わたしたちは、このような事実を知り、「日常生活」が当たり前ではないことを振り返るとともに、被災地に思いをよせ「自分に何ができるのか」を考え続けていくことが大切です。